

# トルコ大使館／トルコ共和国首相 府投資促進機関(ISPAT)／ トルコ海外経済関係委員会(DEIK)

## トルコの保険セクター

トルコ保険・再保険会社協会(TSRŞB)が公表したデータによると、トルコ保険セクターにおける2010年1～4月期の保険料総額は46億7300万トルコ・リラとなり、前年同期比13.37%増となった。つまり、消費者物価指数が10.19%上昇したことを踏まえると、トルコ保険セクターは実質的に3.18%成長したことになる。保険料増加の理由としては、比較対象となった時期(詳しくは後述)と景気が回復しつつあることがあげられる。

保険セクターの生命保険部門における保険料は2010年1～4月期で6億2500万トルコ・リラとなり、前年同期比14.27%増、実質的には4.18%の成長がみられた。同時期における損害保険部門の保険料は40億4800万トルコ・リラとなり、前年同期比13.21%増、実質的には3.02%の増加となった。損害保険部門における保険料をさらに詳しくみると、最も著しい成長を遂げたのは健康保険セクターで、保険料は7億101万トルコ・リラとなり、前年同期比23.48%増となった。実質成長率は13.29%である。トルコの保険セクターの成長は今後も続くことが期待され、2010年は名目上10%の成長が見込まれている。

これらトルコの損害保険部門の成長の背景には、基本的な2つの理由がある。まずは、比較対象になった時期である。比較対象となった2009年の1～4月期は、金融危機の影響により、保険料に大幅な下落があった。

2つ目に、トルコにおける保険料の増加は、トルコ経済の成長と深いかかわりがあるといえる。金融危機の影響から持ち直しつつあるトルコ経済は、2009年第4四半期以降、再び成長し始めた。2009年第4四半期のトルコの経済成長率は6%、2010年第1四半期では11.7%を記録し、OECD加盟国の中でも最も成長が速い国となっている。このように、最近発表された資料でもトルコの経済が持ち直しつつ

あることが明らかになっている。実際、2010年4月における稼働率は72.2%と予想を超える結果となった。また、4月の貿易収支が50億ドルの赤字ということからもわかるように、トルコは輸入も増加している。自動車販売協会の資料をみると、特に小型商業車の売上が伸びつつあるのがわかる。2010年1～3月期の乗用車・小型商業車の市場全体の売上が前年同期比6.82%増だったのに対し、小型商業車のみの上は前年同期比27.19%増だった。景気回復の兆しと自動車売上の増加は、経済動向と深くかかわりをもつ保険セクターにもよい影響を与え始めている。

2009年トルコの保険セクターは、世界金融危機によるトルコ経済の悪化と価格競争の激化の影響により実質的に縮小したが、2010年には回復が、2011年には成長が見込まれている。

トルコ保険セクターにおける雇用は、金融危機があったにもかかわらず2009年にも増加がみられた。2007年には1万4561人だった保険・再保険会社における総雇用者数が、2008年には1万6007人に増加し、2009年には1万8841人へとさらに上昇した。

トルコの保険セクターには、将来性があると考えられている。2009年のデータによると、世界の保険料の対GDP比は7.1%であり、先進国では8.8%、発展途上国では2.7%という数字になっている。この比率がトルコではわずか1.29%ということを見ると、今後トルコの保険セクターは大幅な成長が期待される。

これに関連して、トルコ保険セクターにおける各企業をみると、このところ外国投資家の保険セクターに対する関心がうかがわれる。現在54の保険会社のうち34社の資本の半分以上が、直接もしくは間接投資により外国投資家の手に渡っている。最近では、NKSJホールディングス傘下の損害保険ジャパンが、フィバ損害保険の株式93.36%を281億円で取得したことにも、外国投資家のトルコの保険セクターに対する関心をみてとれる。

世界中で外資の流通が減少しているこの時代に、堅実なことで知られる日本人がトルコの将来に信頼を寄せる行動をとったことは、トルコ経済にとっても重要な指標となった。

お問い合わせは、トルコ共和国大使館経済参事官室(TEL:03-3470-2395、FAX:03-3470-3257、E-mail:tokyo.ekonomi@hmtokyo.jp)まで。 ●